



# Case Report

## やわびた 傍ストーマヘルニアに有効であった症例

### キーワード

やわらかい凸、傍ストーマヘルニア、腹壁の膨隆  
ストーマ近接部の凹凸、ストーマサイズ拡大、追従性・伸縮性のあるテープ

## はじめに



帝京大学医学部附属病院  
皮膚・排泄ケア認定看護師

尾崎 麻依子

1997年に帝京高等看護学院を卒業後、帝京大学医学部附属病院に入職。2005年に日本看護協会看護研修学校 WOC看護学科(現:皮膚・排泄ケア学科)を卒業し、WOC看護認定看護師(現:皮膚・排泄ケア認定看護師)を取得。現在は、帝京大学医学部附属病院にて専従看護師として勤務。

傍ストーマヘルニアは、ストーマ晩期合併症の中でも頻度が高い合併症であり、ストーマ外来でのフォロー中に出現することがほとんどである。傍ストーマヘルニアは腹壁の膨隆、近接部の凹凸、ストーマサイズ拡大など様々な変化が生じるため、安定した装具選択にしばしば難渋する。

今回、傍ストーマヘルニアによりストーマ近接部に装具が密着せず、便漏れや潜り込みを繰り返していた症例に対し、やわらかい凸とテープをもつ『やわびた』が奏効した症例を報告する。

## 症例:60歳代男性

|         |                                                                               |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 既往歴     | 抗凝固剤内服中。                                                                      |
| 現病歴     | 直腸癌に対し術前化学放射線療法後、内肛門括約筋切除術+横行結腸ループストーマ造設施行。<br>ストーマ造設後1年を経過した頃より傍ストーマヘルニアが出現。 |
| 家族背景    | 独居(子供二人は独立)。                                                                  |
| 職業      | 荷物の運搬。                                                                        |
| ADL     | 自立。                                                                           |
| ストーマケア  | セルフケア。                                                                        |
| ストーマサイズ | (造設時)縦38×横40×高さ10mm、(6年後)縦47×横45×高さ12mm                                       |

## ストーマ装具選択の実際

ストーマ造設後1年が経過した頃より傍ストーマヘルニアを合併し徐々に増大した(写真①、②)。退院時は単品系平面型装具を使用していたが、腹壁の膨隆とストーマ近接部の凹凸が強くなり、便漏れも頻繁に出現するようになった。ストーマ近接部の密着を高める凸面型装具への変更を視野にいたしたが、傍ストーマヘルニアにより突出した腹壁に強い圧迫を与えることが危惧された。そこで装具の安定性を考慮し二品系平面型装具への変更と、ヘルニア用ベルトを導入したところ、便漏れは改善された。しかし、本人が希望する4日間の貼付期間中、あらゆる用手成形皮膚保護剤を併用しても常に便の潜り込みが繰り返された。これにより4時方向に不良肉芽が出現し始め、さらに抗凝固剤内服による出血も問題となった。また腹壁に十分追従させるには面板面積が小さく、過度な腹壁の伸縮による物理的刺激によって、面板外縁部に皮膚炎が発生した。

そこで今回、ストーマ近接部の密着を高めることを期待し『やわびた』を選択した。ストーマが不整形で、傍ストーマヘルニアによるサイズ変動が大きいいためフリーカットを選択し、近接部の凹凸

補整には用手成形皮膚保護剤を継続して併用した(写真③)。これによりストーマ近接部の便の潜り込みは改善された(写真④)。また使用開始後4カ月経過した現在でも、過度な圧迫による皮膚障害や反発は出現していない。そして、膨隆した腹壁に外周テープがしなやかに追従することで皮膚への負担が減り、外縁部の皮膚炎も消失した(写真⑤、⑥)。貼付期間は本人の希望する4日間を十分確保できている。



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

## 考察

従来、傍ストーマヘルニアの膨隆した腹壁に、硬い凸型嵌め込み具が内蔵された凸面型装具は、反発や圧迫による皮膚障害を生じる可能性があるため第一選択となりえなかった。しかし『やわびた』のやわらかい凸は、傍ストーマヘルニアにより膨隆した腹壁にも過度な圧迫を加えず、ストーマ近接部に追従できることで、便の潜り込みを改善することができた。また伸縮性に優れた外周テープが、過度に伸縮する皮膚や、膨隆した腹壁に密着性と安定性を与えたことで、皮膚への負担が軽減され皮膚炎も改善できた。

ただし、傍ストーマヘルニアに凸面型装具を選択する際は、ストーマと腹壁を「よく視て」「よく触って」適応を十分アセスメントすること、そして定期的に評価することも忘れてはならない。本症例についても継続して観察および評価が必要だと考えている。

## まとめ

『やわびた』のもつやわらかい凸は、傍ストーマヘルニアを合併した腹壁にも過度な圧迫を加えず、近接部に追従することができた。また伸縮性に優れた外周テープにより、膨隆し伸縮の大きい腹壁にも優しく密着することで安定性を得ることができた。

本症例から、傍ストーマヘルニアにより装具の安定性が得られない患者にとって、『やわびた』は有用でありQOLを向上できる装具であると考えられた。